

芸術学科

◆ TR テキストレポート科目
 ◆ TX テキスト特別科目
 ● S スクーリング科目

※下記で紹介する科目は2026年度開講予定のものです。一部、変更になる場合があります。

芸術学科専門教育科目

芸術学科では、コースの枠を越えて自由に選択することのできる科目群があります。

※各コースの必修科目もあります(芸必修=芸術学コース必修、歴必修=歴史遺産コース必修、和必修=和の伝統文化コース必修)。

科目名	S/T	単位数	単位修得試験	履修内容
芸術学基礎	◆ TR	2	有	芸術の理論的研究に取り組むために必要な基本的語彙(キイ・ワード)の意味を理解する。あわせてそれを実際の作例に即して考えることを試み、感性的な対象に向けての理論的な思考を培うことを目標とする。※芸必修
美術史学基礎	◆ TR	2	有	日本・東洋・西洋の美術史学の研究に親しむための入門科目。具体的な作品研究を扱う優れた文献講読を通して、作品をどのように見たいのか、また作品をどのように解釈したいのか、という美術史研究の基礎を実践的に学ぶ。
京都学入門	◆ TR	2	有	歴史の舞台としてその中心地であった「京都」は、時代のおおきな変革の中で、つねに変貌し再生してきた。そのあとをたどることで、政治・経済・文化の歴史の変遷を学び、歴史都市「京都」の理解を目指す。
史料学基礎	◆ TR	2	有	歴史を理解し調べる際に必要となるのは遺されてきた史・資料である。歴史的な史・資料にはさまざまな種類があり、その特質など史料論を理解する科目。※歴必修
史料講読基礎	◆ TR	2	有	歴史的な史料の読み方を実践的に学ぶ。活字化されている史料を読むための基礎を理解出来る科目群。※歴必修
日本文化の源流	◆ TR	2	有	[和の伝統文化]を幅広い観点から概観して基礎知識を得る為のテキスト科目群。諸々の日本の伝統芸術の源流にある文化や思想を考察する科目、日本の伝統文化と周辺地域の文化の交流史を学ぶ科目、および和食をはじめとする日本の生活文化の背後にある思想を学ぶ科目から成る。
日本文化と東アジア	◆ TR	2	有	
日本の生活文化	◆ TR	2	有	
芸術学概論	● S	1		芸術活動は古くから人々の関心を惹き続け、それを巡るさまざまな議論が重ねられてきた。芸術の諸領域にまたがる基本的な問題をいくつかとりあげ、これまでどのようなことが論じられてきたのかを概観するとともに、芸術学の立場や方法を講じる。※芸必修
美術史学概論	● S	1		美術史を学ぶための入門科目。日本・東洋・西洋の著名な美術作品を取りあげながら従来のさまざまな研究について学ぶ。過去の研究の方法論を学び、残された課題や新たな研究の可能性を模索する。※芸必修
日本美術論	● S	1		日本美術史の時代的特徴、あるいはジャンルの特徴を年代ごとに取り上げ、細部にわたる講義を行う。
西洋美術論	● S	1		美術史研究のさまざまな方法論を学びながら、作品について理解を深め、西洋美術史研究のための基礎的な能力を身につける。
アジア美術論	● S	1		[中国]世界でも類を見ない独特な美術世界を築き上げてきた中国美術について、中国の長い歴史と広大な大地を通して見ていく。 [朝鮮半島]高麗時代から李朝時代までの約千年の美術史を、仏教絵画、陶磁、世俗画の分野で概観する。
音楽文化論	● S	1		音楽を文化的システムとして考えることから、さまざまな音楽文化現象を読み解く。
京都の歴史	● S	1		[京都文化論]日本の歴史文化を学ぶために理解しておきたい基本的な事柄を、京都の歴史を通して、とくに古代から近世の「文化史」という視座から学習する。より深く京都の歴史を知り、さらに日本文化の諸相への歴史的な理解を目指す。※歴必修
文献資料講読	● S	1		古文・漢文などの歴史的な史料を読むための初歩的な科目。漢文の訓読法や訳し方、変体仮名などの基礎を学ぶ。※歴必修

科目名	S/T	単位数	単位修得試験	履修内容
京都学研修1	S	1		「京都」は、古代から近代までの歴史が重層となった地である。そうした歴史や伝統行事の現場を京都各地にフィールドワークし、その空間のもつ現場の体感を大切に、ゆたかな歴史認識を養うことを目指す。
京都学研修2	S	1		
江戸の歴史	S	1		江戸は、いうまでもなく近世の歴史の中心地であり、文化的にも京都とは異なる特色あるものを生み出した。江戸時代260年をかけて平和の中に構築された人々の生活や文化の豊かな諸相への歴史的理解を深める。
詩歌と日本文化	S	1		和の伝統文化を構成する「芸能」、「工芸」、「詩歌」、「花道」等について、その歴史や思想に関する幅広い基礎知識を講義形式で学ぶ科目。※和必修
伝統芸能と工芸	S	1		
室礼ともてなし	S	1		
伝統芸能の諸相	S	1		
花道文化の展開	S	1		
伝統文化の空間	S	1		
アカデミックスキル入門	S	1		
史料講読応用	TR	2	有	歴史的な史料の読み方を実践的に学ぶ。活字化されている史料について、史料講読基礎での理解を踏まえて、史料の読解力をさらに養う科目。
古文書入門	TR	2	有	くずし字の読み解き方、意味のとり方など、古文書を読む基礎的な力を養う。実際に史料を読み解き、読解力を養うとともに、その史料の持つ意味について考察する力を養う。
歴史遺産 Ⅲ-5	S	1		『くずし字用例辞典』の引き方をはじめ、くずし字の読み解き方、意味のとり方など、古文書を読む基礎的な力を養う。江戸時代の人々が残した本物の古文書に触れる実習も行う。また、古文書の具体的な調査方法、取り扱い方法なども学ぶ。
アカデミックスキル実践(1) ディスクリプション	S	1		芸術学の研究にとって欠かせないディスクリプションについて、実際に美術作品を取り上げながら実践的に学ぶ。
アカデミックスキル実践(2) 民俗の調査方法	S	1		様々な祭礼や行事について研究する基礎として、聞き取りなどのフィールドワークの調査を実践的に学ぶ。

研究成果を卒業論文にまとめる。

科目名	S/T	単位数	単位修得試験	履修内容
2年次				
論文研究基礎演習	TX	2		論文を批判的に読むことを学ぶ。課題として与えられた芸術学、歴史遺産、伝統文化、文芸に関する論文からどれか一つを選び、批判的に論文を読むことを実践的に学習する。先行研究とどう向き合い、新たにどのような問題提起ができるのかを自ら考察する。
論文研究基礎	S	1		「論文研究」の前段階にあたる科目。論文をどう客観的に読み、問題の所在を見い出していくのかを学ぶ。課題の論文についてグループで討議をしたり、個人で要約作成に取り組むことで、先行研究に対する客観的批判力を養う。※歴必修
3年次				
論文研究特論	S	1		歴史・美術史・芸能史などの専門家による研究成果の一端を講義で学ぶ。専門家の研究内容から、最新の研究成果を知るだけでなく、データの収集方法、史料の解釈の仕方、論理の立て方など、論文を書くためのヒントを学び取る。※歴必修※ア履修不可※文2024年度以降入学生履修不可
論文研究 I-1(芸歴和)	S	1		卒業研究(卒業論文)に直結した科目。学生が自ら研究テーマを見つけて研究し、発表し、複数の教員がゼミ形式で指導する。 ※芸・歴・和のみ履修可かつ必修
論文研究 I-2(芸歴和)	TX	1		
論文研究 II-1(芸歴和)	S	1		
論文研究 II-2(芸歴和)	TX	1		
4年次				
論文研究 Ⅲ	TX	2		「論文研究1」「論文研究2」の単位を修得後、「卒業研究」の着手までに1年以上のブランクができてしまう場合に、「卒業研究」の準備段階にあたるレポートを作成・提出し、教員からの添削・指導を受け、空白期間の学習を補う。
卒業研究(芸歴和)	TX	8		これまでに学習してきたことの集大成として、自らの研究成果を文章に表現し、発表する。※芸・歴・和のみ履修可かつ必修

芸術学

芸術学科 芸術学コース

◆ TR テキストレポート科目
 ◆ TX テキスト特別科目
 ● S スクーリング科目
 必 必修科目
 選必 選択必修科目
 選 選択科目

※下記で紹介する科目は2026年度開講予定のものです。一部、変更になる場合があります。

芸術学コース専門教育科目

芸術活動という営みの意味を見つめるため、既成概念を取り払う。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
芸術学研修		●	必	1		芸術作品を現地での見学やグループワークを通して芸術学の基本的な見方や考え方を学びつつ、学生同士の交流も深める。
芸術学実践		●	必	1		講義でもなく鑑賞でもなく、実践(ワークショップ)の授業。クラスによって、音を鳴らしたり、対象をじっくり観察したり、芸術を実践的に学ぶ。
芸術論 I-1	芸術学入門	◆	必	2	有	芸術学コースでの学びを知るための導入科目。芸術学コースで学ぶ意義、カリキュラムの構成と内容、卒業研究の進め方などを正しく理解し、芸術学コースでより良く学ぶための準備を整える。
芸術論 I-3	芸術鑑賞1:日本・東洋	◆	必	2	有	日本・東洋美術に慣れ親しむための入門的な科目。各地の美術館や博物館で開催されている日本・東洋美術の展覧会に出かけ、展示されている作品の中から一つを選び、記述することを通じて作品を見る目を養う。
芸術論 I-4	芸術鑑賞2:西洋	◆	必	2	有	西洋美術に慣れ親しむための入門的な科目。各地の美術館や博物館で開催されている西洋美術の展覧会に出かけ、展示されている作品の中から一つを選び、記述することを通じて作品を見る目を養う。
芸術論 I-5	美術館・博物館の教育普及	◆	選	2	有	美術館・博物館の教育普及活動(ワークショップ)に参加し、その体験を踏まえて参考文献を読み、レポートを作成する。今日の美術館や博物館の重要な役割のひとつである教育普及活動について、机上の空論ではなく、多様な視点から主体的に考える力を養う。
芸術学 III-1	美術資料の読み方:日本・東洋	●	必	1		芸術を学ぶ者にとって文献の読解は必須である。原典に触れながら、基本的な資料の読み方を学ぶ。
芸術学 III-2	美術資料の読み方:西洋	●	必	1		
芸術学資料論 I-1	資料の講読:日本・東洋	◆	選必 (2単位以上)	2	有	日本・東洋・西洋の芸術学研究に欠かせない資料を読み解く。基本的な資料に慣れ親しみ、資料を正しく読解する力、その内容について理解を深める力を養う。
芸術学資料論 I-2	資料の講読:西洋	◆		2	有	
芸術学演習 I-2	美術批評	◆	必	2	有	芸術批評の理論と歴史を把握し、批評的なまなざしを身につける。
芸術学 I-1	芸術理論:芸術環境を巡る諸問題	●	選必 (2単位以上)	1		自然をモノ化して所有する行為と芸術活動との関係について、文化的な状況を確認しつつ、原理的な考察を行う。
芸術学 I-2	芸術理論:芸術学原論(祭礼と感性)	●		1		祭りに内在する(宗教的身振り)をいくつか抽出し、その先に見える宇宙像や宗教の世界について哲学的に考察する。
芸術学 I-3	芸術理論:舞踊論	●		1		「バレエは何を表現してきたのか」をテーマに舞踊の歴史を読み解いていく。
芸術学 I-4	芸術理論:表象行為論	●		1		美術史や芸術論といったテキストの解説ではなく、人間がいかにその肉体と精神を通じて世界と文化的、有機的に関係しているかをダイナミックにとらえていく。
芸術学 I-5	芸術理論:芸術と科学	●		1		視覚芸術を中心に、新たな「美」の定義にもとづいてアートを捉えなおし、現代の私たちにとって芸術がもつ意味、芸術と現代社会の関係について理解を深めることを目指す。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得 試験	履修内容
芸術学Ⅱ-1	芸術史:写真の諸相		S	1		写真は記録メディアであると同時に芸術作品ともなり得る。このような写真の性質について理解を深め、歴史と理論の両面から考察できるようになることを目指す。
芸術学Ⅱ-2	芸術史:西洋芸術史の諸問題		S	1		西洋美術史における作品と社会の関係性について、これまでの研究成果も踏まえつつ、具体的な作例をもとに多角的な観点から考察し理解を深める。
芸術学Ⅱ-3	芸術史:日本芸術史の諸問題		S	1		近世期の浮世絵が画題、技術、出版、流通、享受といった視点からどのように論じられてきたのか、研究史を振り返りながら具体的な作品を取り上げて考察する。また、現代における浮世絵の展開という切り口からも考えていきたい。
芸術学Ⅱ-4	芸術史:東洋芸術史の諸問題		S	1		仏教美術の作例を中心に取り上げ、従来の研究成果を振り返りつつ、その研究方法と今後の可能性について考察する。作例を軸とした研究と関連資料の研究の重要性を学び、さまざまな視点から考察する力を養うことが目標である。
芸術学Ⅱ-5	芸術史:西洋音楽の諸相		S	1		西洋近現代音楽の流れ、西洋音楽をめぐる歴史記述のメカニズムとその問題点、音楽作品について語るためのさまざまな方法・視点、について知識と理解を深める。